

活石 法園

雲根土心

三編

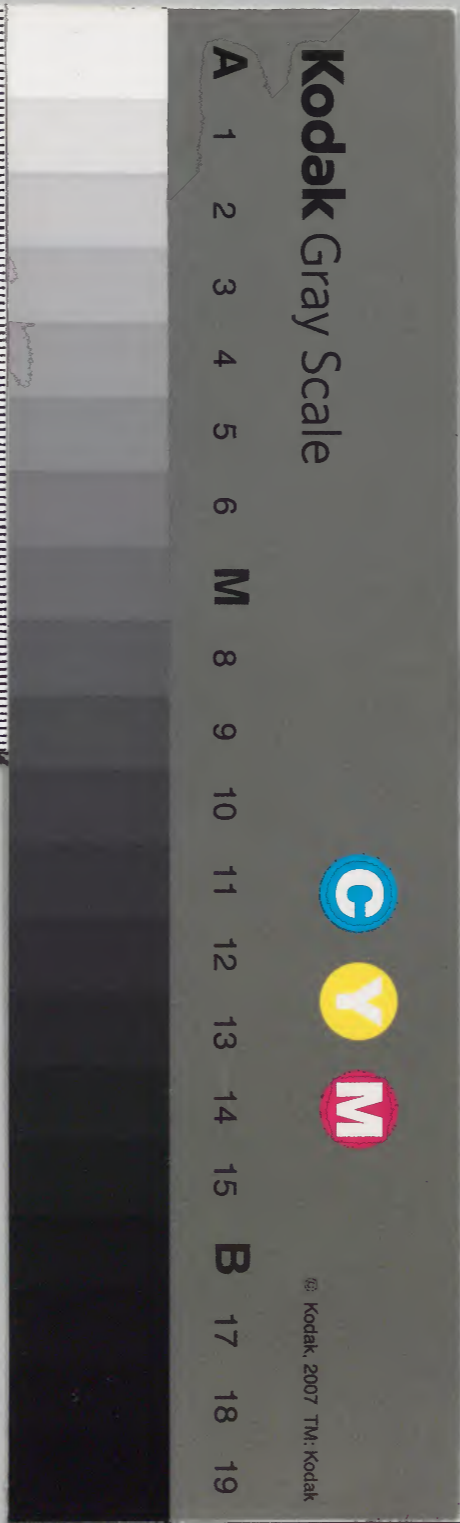
巳

内閣文庫				和書 類
一七〇二	一六	一七	一七	
架	冊	號	類	

為三開印

大政官文庫				和書 門
一七〇二	九八	一六	一七	
冊	架	函	號	

内閣文庫	
番號	和 11702
冊數	16 (15)
函號	197 37



雲根志三編卷之五目錄

鑄刻類 十五種

曲玉

神代石

石劔頭

神代筒石

石刀 九

狐鑿石 十一

青龍刀石 十三

神代石 十五

附錄 諸家所藏神代石圖

車輪石 二

神代石 四

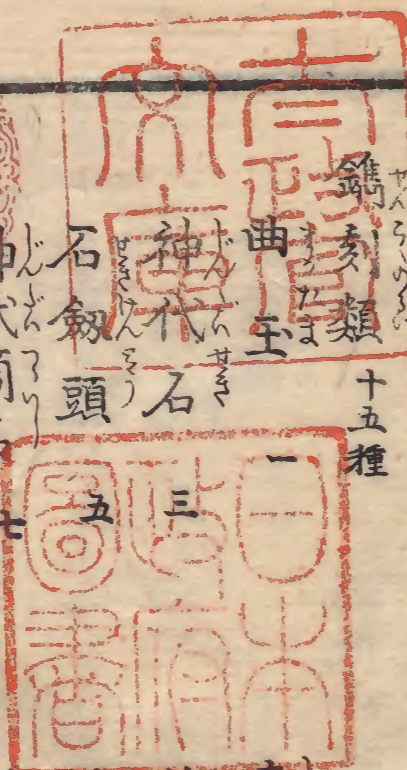
神代石 六

神代手斧石 八

狐鉞石 十

異志都伊 十二

石靴 十四



松本文庫

雲根志三編卷之五

目

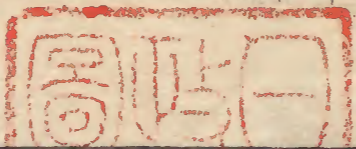
雲根志三編卷之五目錄終

雲根志三編卷之五

江州山田浦 木内小繁重曉著述

鑄刻類

曲玉



後編に載たりしもの又又閑ところを録す美法は

蜂屋の谷川迄村は醫國所あり當所の山々拾ひ集め

として曲玉神管石等数品不藏せりと安永元年の秋尾

張國志多郡床禍より而して古代の壺を堀出せり壺

の中は曲玉二百餘ありて細小にして下品なり大

さ二三分ありと濃州石系村之宅氏の語なり又尾

州中島郡砥墓村より古代の壺が穿出せりこれの中は

雲根志三編卷之五

曲玉神管石等あり此所ハ上古十柄の降海を祇一
 と濃州野中村正傳との話なり若狭國小濱の近ハ大
 町裏の山崩し壺出たり中ハ曲玉十を
 京都八坂近邊ハ大地震の時地折と壺を吹出す
 中ハ曲玉六十箇あり内一ハ今予ガ所ハ
 石亭話なり又江州羽田村龍王山ハ鬼が窟あり
 物夥ハあり此岩屋の中より曲玉神管石及び太刀の
 具と物ハ出たり同ハ同途薬師山ハ折曲玉神
 鬼が岩屋ハあり物敷クあり此岩窟より折曲玉神
 管石等出たり羽田村龍山坊の傍なり又京師後園某

安永庚子の春より秋まで北國東國弄石修り出れ敷
 品ノ奇石ハ尋得且弄石の談話多ハ奥の仙臺元栗
 系郡一の迫筑館とあり是ハ日旅館の主人夜話ハ去
 年安永五年の夏高町の裏畑の中より古き壺ハ穿出せ
 其の中ハ細少なり曲玉三升あり何と

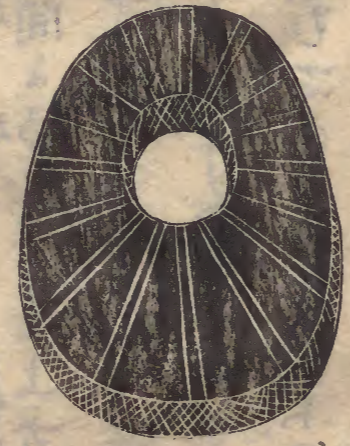
車輪石ニ

上古の神物神作なり何れハ其の形ハ
 丸く或ハ飯櫃なり何れハ平ハ中厚ハ
 大さ指後ハ三寸或ハ五寸或ハ八九寸色薄白く木理あり
 木の化セリハ似たり菊花のごとク彫て中ハ一の
 穴あり今の茶臺盃臺の形ハ一ハ二寸

とうりうり其稀なりそのかり當時弄石家の愛蔵す
 上古の物にして大和葛城山の麓辨天山坂口村にて掘
 けりしもの同法隆寺の丘山又八田心金剛山の麓千早
 城の真山又大峯山又多武峯又之輪の社地若宮の邊よ
 り稀に穿出せりと破欠て全體なりそのものりく
 此物他國に出るものりくす此物を藏せしる所
 弄石家多し其ものりくす此物を藏せしる所
 石隣齋和州藤門周齋同州普賢院浪華葉葎堂
 かり他に藏せしる所りくすも若宮氏の蔵すものりくす
 形甚雅しく美なり

形状圖のごとく和州
 法隆寺山中より穿得たり
 同州柳中金口山普賢
 院の珍藏なり

表圖のごとく裏魚地
 かりて筋さかり出所
 詳なりしが京都西洞院
 錦上るもの田宗順の石
 藏なり



形状圖のぶくく堅剛よ

くく光彩あり和妙暮

城山の麓舟天山坂口

村より穿出せり湖東

石亭藏

神代石 三

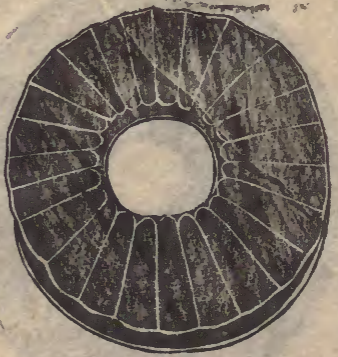
京河岸田氏洛西岩倉山の民間より得て上古の神石

と感ず茶色くして長さ七寸太さ一握少くゆづりて

中よ二川の流あり甚硬く古く愛すべきものなり及

編よ述ぶ飛渡る滄洲より恵む所のものと同不田也

く色くより異なりよんく子つよくこれ神代石なり



京河岸田氏ハ予が弄石の友なり

神代石 四

安永四年己未八月廿八日浪華は遊で葉葎堂に訪ふ

主人寺石に就ぶ幸なり此は神代石一石に似たり

て見せし古今数かき奇石なり其形状淋びこのめく

長さ七寸中四寸むく根の方厚さ一寸むく末ハ薄く

く三五分本せきく末ひく一本の方よ二寸よ一寸む

く一穴あり表裏より筋を彫りて全體青瑪

瑙と奇なり美なり多きく堪り玉工のぬふり

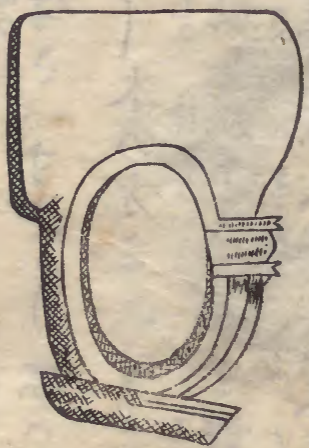
らす其根源ハ彫刻の物なりさきく述ぶ濃お

三宅氏が淋石なり同のくふりてよありて取き

異なり 古代神工の物といふは、
唐院村の山中より狐の穿出せし
又奇なり、
大和國
圖のぶ

安永元年秋八月和州
虎隠村山中野狐之
と穿出す浪華兼葭堂

珍藏なり



石釵頭 五

其形鉄鎧の如のごとくして石なり、
神物神作なり、
或ハ一寸餘少し、
筋高く彫上下は一寸

和州所存神社の古地より稀に掘出せり、
同く藤門周齋執州谷川氏浪華兼葭堂これと藏す
共々和州の産なり、
是神代太刀の如し

全備圖のぶ、
和州と輪を

勢州津福田之藏の
愛蔵なり

紋理園もんりの如くごとく紀州きしゅう名

草郡くさぐん秋月村あきづきむらより出づ

江州えしゅう草津くさつの驛えき常善寺じょうぜんじの

愛翫あいぐんなり

石質せきしつ堅硬けんこう光澤くわうさつありて

長なが二寸九分にすんくわうぶ周圍しゅういと寸

二分にぶん出所しゅつじょ詳しやうならず勢州せしゅう久

居保田いほのた長参ながまきの石藏いしぞう也

園ぐわんの如くごとく質堅剛しつけんこうにして

青色せいしきなり紀州きしゅう日ひ前まへ宮みや神

社の地しやのちより穿得うらえて海うみ

石亭せいてい主人しゆじん所藏しよぞう也

形容けいよう園ぐわんのごとく石質せきしつ

堅密けんみつと寸餘すんよとて濃こい

氣きとて越後えちご頭城かみきり郡

矢代やしろ大明神だいめいじんの社地しやちより

穿出うらえす

神代石かみしろ 六

大和國やまとのくに金口山きんぐちさん普賢院ふけんいん泰然たいぜん子こ予よが同癖どうくせきの友ともなり

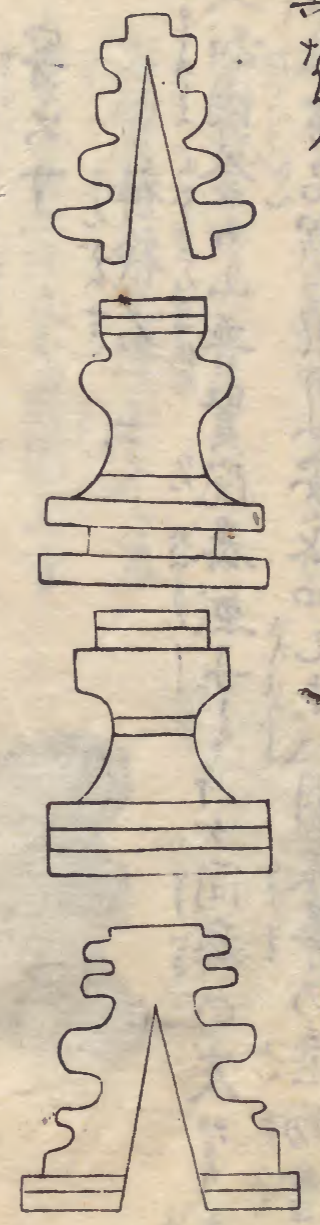
石数せきすう百品ひやくひんたり安永あんえい四よし未み八月はつげつ浪華なみぎはの産物さんぶつ會かいも

持身もちみ所の神代石かみしろ予よ初はつてこれこれ知しえたり古代こくたいの神物かみぶつ何なに

たゞのよもあらんか一和州わしゅうと輪山りんざんより穿得うらえて其その



形圓のどろく色薄白く厚さ四寸石の性少くやりの
くくよあなりす持来る数四の同物く形ものく
異なり



神代筒石七

形状竹の筒れどく高さ二寸太さ五寸廻り全體青瑪腦
くく上品なり大和國信貴山く拾ひ得たりと足あ
るもまた今玉工の及ぶ細くありす然るも形

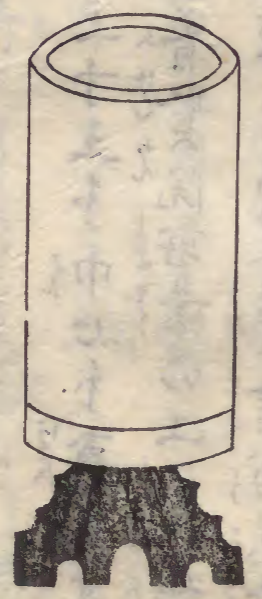
刻のもれして古代の神物神作なり今按ずると甘き
前雲州の人玉造山く拾ひ得たりと持来る也
す同物同形なり神代は用ひるもの見えり今時
の人其用はありす形圓のどろく

青瑪腦

雲州玉造石也

和抄金口山普賢

院珍藏



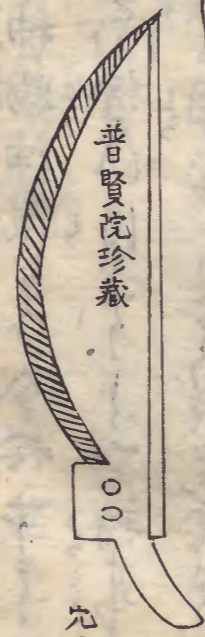
神代手斧石

大和國多武峰く穿ぬりて普賢院の不藏なり其
形今時大工の持手斧に似たり大さ形とも真手

斧の如くして柄短すげ、完なきのこなり。石性柔
小して下ふなり、薄白き石なり。是又神代のものなり。

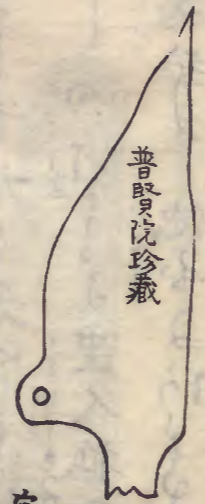
石刀 九

形小刀のび、長さ二寸五分、巾七分、或ハ一寸片、又之
是又往古の神物なり。普賢院所藏の二品、八和州之輪
山、堀得、予がたくり、一品、八信州秋葉山、拾
ひ得、大抵同物、形異なり。二品、よふ、よ
何、形圖のぶ、



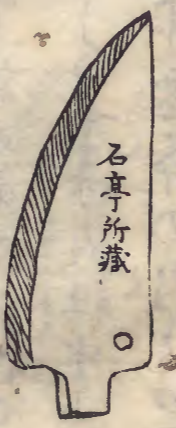
普賢院珍藏

九ニテリ



普賢院珍藏

九ニテリ



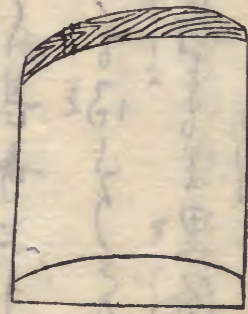
石真所藏

狐鏡 十

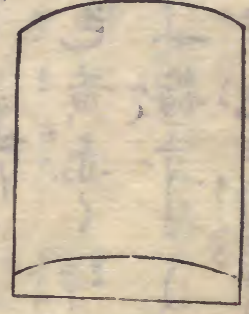
予が孫、狐の鏡、予のあり、能く七尾の近、岩
車、安永二年四月、これ、形大工の
持人、小異なり、大き又然、色黒赤く、光
玉のぶ、甚奇、美物なり、其、同、
甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、
て、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、
神代の古物、他、あ、り、す、他、の、同、癖、の

人藏すも入りきさず

能登國岩車山中
は穿得り色黒
赤くして光あり



能登國甲の
産色黄赤く
光輝ありてあ
る



狐鑿 十一

狐のつゝりつゝの能登必狐の絶く回ふあり回付回ふ
て二ふたはつゝりつゝの石性大は異なり尤堅く
玉の如く石脈の木理ありて木れざり細く長く
平くして丸く先少くひききて諸又あり神代の物なり
づー西所もは里人狐のつゝりつゝの素石社中より
此物なり他心よりつゝりつゝも変ず雷芥の形なり

狀名柱大は異なり



異志都く伊 十二

本國栗本郡真堂村を傳へり昔山門三千坊の時
不は真堂より伽藍あり断絶のは一村となり新堂村
より故は村の田畑の字は堂の名残あり安永六年二
月新堂村の家花田より田畑畑穿ありあり地中
五尺をくり下り石の漢櫃を掘りて櫃の中は一の
石あり甚異形なり長さ一尺七寸五分太さ中より
一握あり西方次第は細く先より至りて両端より

同トく糸きゆめり甚硬くして青瑪腦ともいふ
 物とのれもえぬハ彫刻のものろ三千坊時代の
 一の入りす遥上代の神宝なる中古由縁あ
 りく伽藍の宝物となくして今予がゆふに
 につく接すは日本紀神武紀よつて異志都
 伊のちの予此頃京師よして奥州松前江指村に上
 八十兵衛といふ人と教日談話よるふ此人のよ十ヶ年
 已前江指村の隣に熊石といふ所へ雷落しるの
 とき此物つりあり近里の童俗に雷大鼓の撥
 と残せり此沙汰次第は遠近よびえて三五里四

方大は騒動よるふこれよめて雷堂といふ小祠を造り納
 たり其翌年近邊の山中より同物の半よりおれをひろひ
 ありくあり同トく雷堂へ納むるの物なり然るに
 上古所用の物なりありのるるに左のごとく

長さ一尺七寸五分



此所より 廻り三寸八分
 此所より 廻り五寸八分
 此所より 廻り四寸五分
 形状全く倭アそ圖の如く光彩あり江州栗本郡新市村
 へて穿けりけり明和三年三月九日なり湖東石亭の
 所藏なり

青龍刀石 十三

安永八年己亥夏六月奥州松前江指村^{上氏}より系
 河村氏へ贈^り所^の神代石甚異品なり予これを見
 よ及ばず其形状青龍^カともいへ^り石質硬く^し
 色薄白く近^じら^は奇物なりと^いつ^も至^りて上品^{なり}
 ついで^に村上氏の^い江指村の^近に熊石^とい^ふ所の山
 中より穿^りぬ^れ予按^ず本草綱目藏器曰因雷震後
 得者形非^一青黑班文至硬如玉或^は言^は是人間石造納^り
 天曹不知事實此説尤^も可^らん^が形圖^のを^し
 安永七年戌九月^に前^にと^り扱^り夷^の界熊石^とい^ふ所^の
 堀^り出す形圖^のを^し厚^さ一^寸

熊石

此所^は雷社^に
 祠^{あり}神代^の寺^に
 石^を穿^ぬれた^りの
 祠^に納^めむ



石靴

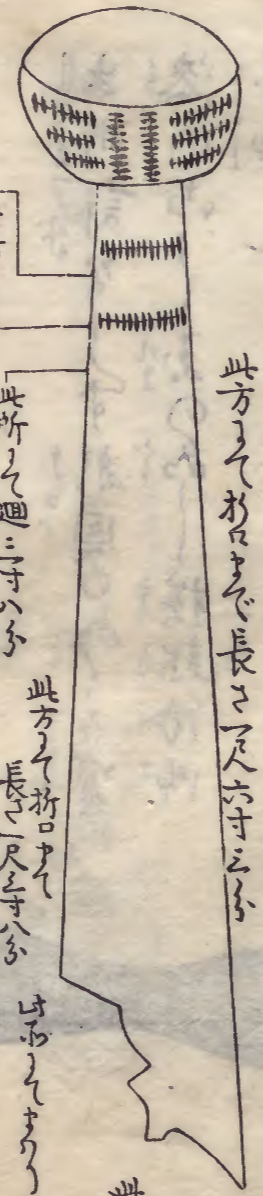
石靴^は美法^な木曾山^{より}出^るて^は之^を宅^氏持^来り^し
 前^編より^しす^其後^隣村^杉江^氏再^木曾^山より^此物^を
 と^拾ひ^まり^し時^は安永^{九年}子^{六月}十二^日予^木曾^山
 通^りて^は白^井峠^の山^中に^て石^を掘^りし^て其^の石^を自^ら拾^ひぬ^り
 其^の形^は淋^びけ^に如^しく^して^は石^質硬^き石^{なり}今^も神

代の物より今様の物よりあり其山中谷万と云々あり
あるは古代の神石移りの形なり物の形ありありあり
此所はくりに今味せば古代の奇石なりありあり
後の人よりくりにくりに求めたり

神代石 十五

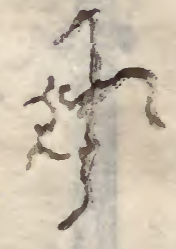
京都百萬遍屋敷福園某安永九年庚子の春より秋
のほどで小園ふむ遊りして海内の奇石を尋ね求
む越後ふむむ島郡昭野村信長を有るありあり
人の宅よりありてより奇石の語ありありありあり
神石と云ふなりこれと云ふより出所ハちやん同形
山城よりありの山中は穿けりなり形状香細よりあり

取らるる福園氏より予は勝りれ今其圖を左に記す



此方より折口あり 長一尺二寸五分
此所より廻三寸五分 長一尺二寸五分
此所より廻三寸五分 長一尺二寸五分

全體圖のごとく 性青瑪瑙なり 越後と云ふ所は山城
山中より穿出す



附録

諸家所藏神代石圖

出所詳なり形圖の如く質黒玉の如く
江州長濱横超院の所蔵なり

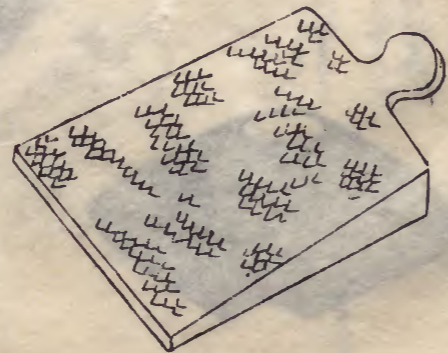
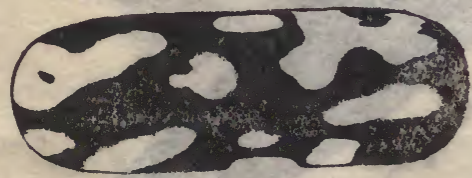


出所詳ならず形圖の如く石質
漆の如く玉の如く横超院の
所蔵なり



嵯峨天龍寺賢長老の
愛翫して形圖の如く
石質黄瑪瑙なり真南
部の産

石質堅硬して黒赤の
斑文一穴圖の如く
京州柳馬場八幡町より
法泉寺の所蔵なり



形状圖の如く長八寸巾一寸五分
厚さ八分石質堅剛しく片と
なり飛州阿多野の
穿けり
同州の長嘯人の
藏かり

全備圖のおく其質黒玉の
如く讚州白崎より
不かり同州阿野南郡陶村
秘園氏の所藏かり



飛州阿多野の

此並の

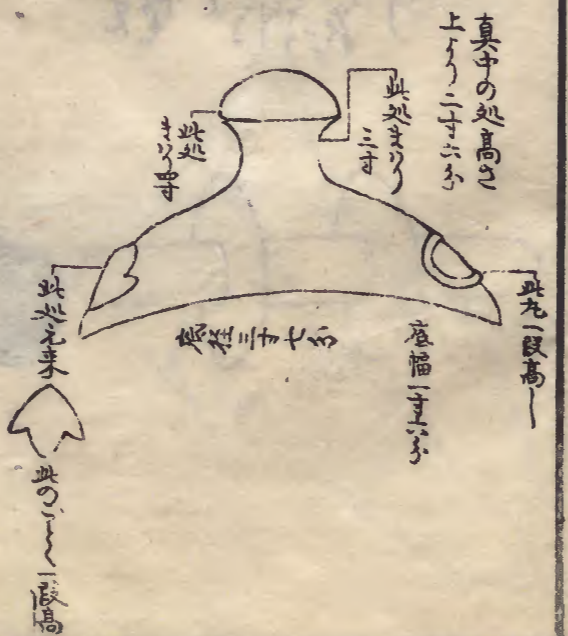
形容圖の如く石質堅硬
くくろ

飛州小八智法産あり

同州の長嘯
藏

形状圖のおく石質堅
硬しく灰色なり厚さ
五分

越後高田寺町光國寺
窓冷坊の所藏かり



真中の処高さ
上より二寸五分

此処より
二寸

此九一段高

底幅一寸五分

飛州川中

此処を末
此の一段高



石質堅剛にして其色純黒
なり形接心白川字に身付
て口物に梅多冷洲
待花し

形状圖の如く白色にして堅
硬なり同物同形より穿け
る口物に梅多氏の跡
あり



石戈

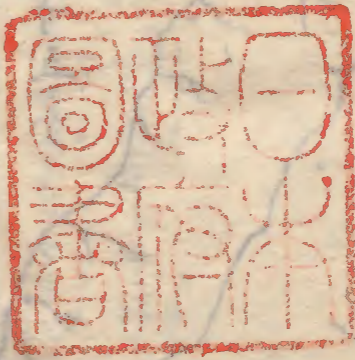
越後産紫褐色堅硬鐵の
如く長一尺二寸五分
廻り中々八寸五分



浪華 蕪葎堂所藏

雷槌

奥の南部の産
勢州洞津福田氏珍藏



雲根志三編卷之五終

